

第 11 回 日本外来小児科学会 予防接種委員会 議事録

文責：藤岡雅司

開催日時：2012 年 1 月 22 日（日）12:00-15:00

開催場所：ホテル新大阪 東口ステーションビル

出席者：永井崇雄、田原卓浩、宮崎千明、宮田章子、横田俊一郎、吉川哲史、  
渡辺 博、藤岡雅司

欠席者：岡藤隆夫、落合 仁、武内 一、寺田喜平

[報告事項]

1. 「細菌性髄膜炎患者の全数把握の要望書」について  
外来小児科学会が依頼した要望書提出の件が、2011 年 12 月 11 日の日本小児科学会理事会で承認された。  
しかし、その後の取扱の経過については不明。
2. 学会 HP の各部会、委員会、検討会等の Web 担当者の推薦について  
予防接種委員会の連絡先は岡藤隆夫先生。Web 担当者 ML が運用開始。
3. 化血研のインフルエンザワクチンのアナフィラキシー症例の経験について  
(永井、落合)  
10 歳未満は前シーズンの 6 倍、原因は現在不明、調査委員会が 1 月 16 日に開催され、今後の調査内容が検討された。
4. 進行中の研究の進捗状況について
  - 1) 麻疹風疹混合ワクチンの発熱率はそれほど高くない？（岡藤、永井）  
ワクチン学会と予防接種の研究報告会での発表について  
ワクチン接種・非接種で有意差なし。1 歳代では 1 か月間に約 5 割が発熱するという結果。外来小児科誌への投稿を検討。
  - 2) 突発疹（HHV-6 初感染）後の MR ワクチン接種スケジュールに関する検討（吉川）  
エントリー数が少なく解析できない。現在までの協力者に終了の報告の連絡をする予定。

5. 昨年の第 21 回年次集会（神戸）での予防接種委員会の WS の結果報告（岡藤、永井）  
テーマ「効率的な受付を考えよう」。36 名のコ・メディカルが参加。医療機関で様々な対応を行っていた。22 回年次集会では、コ・メディカル・ミーティングが予定されている。現時点では委員会の提供する WS はなし。
6. 厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会、予防接種推進専門協議会、日本小児科学会予防接種・感染対策委員会などにおける最近の議論の方向性について（宮崎）  
予防接種法改正にむけての厚労省素案が予防接種部会で示されたが、国と自治体の役割や費用負担などに大きな変化はない。Hib、PCV7、HPV は定期化が検討されているが、水痘やムンプスについてはより慎重な書き方になっている。次回の部会は 1 月 27 日。小児科学会は BCG 接種期間の延長を求めている。同時接種は勧める。同日接種の要望も準備中。ポリオワクチンに対する基本的なスタンスは変わらず。
7. DPT、Hib、PCV7 同時接種の調査について（田原）  
3 月末で終了。5,000 例を目標。一部を小児科学会で発表予定。
8. 水痘ワクチンと MR ワクチンの同時接種の調査（吉川）  
細胞性免疫については水痘抗原ビケンで確認予定。
9. 予防接種システム検討会について（藤岡）  
秋に予定。内容等詳細は未定。

[協議事項]

1. 新しいワクチン（Rota vaccine、IPV）や接種が広がるワクチン（HBV、HAV）への対応  
Rotarix 初回接種の時期についての対応。費用負担の問題。  
IPV 大臣発表通りの導入はおそらく無理。不活化導入の目途が立てば OPV 中止もありうる？  
HBV 父子感染、STD など水平感染予防での勧奨。リーフレット作成予定。  
HAV 化血研が再承認申請？
2. 同時接種の拡大と組み合わせ  
集団接種の BCG が同時接種の障害となっている（全国で人口比集団 4 割、個別 6 割）
3. 日本外来小児科学会役員会への次年度予算の計上など（藤岡）  
現時点では会議費程度を計上（年間 10 万円）
4. 「任意接種のワクチンの同時接種の効果と副反応の検証？」（藤岡）  
班研究で実施しているのでもはや不必要。
5. 次のリサーチテーマは？
  - ・水痘ワクチン 2 回目接種時期の検討 学会の研究基金に申請して、200 例（ワクチン代を基金で負担）として、吉川先生の調査と併せて実施を検討。
  - ・水痘、ムンプス重症例のサーベイランス 学会員参加のインターネットサーベイランス報告システムの構築
6. 次回の委員会開催予定  
7 月頃を予定、ML で調整